

## カプリニウム13 安全性試験

試験開始日：2010.07.24

試験名称：カプリニウム安全性テスト

試験方法：カプリニウムの濃縮液を20リットル水槽に対し1日200mlずつ添加し、5日間、合計1リットル（水20リットルに対し、カプリニウム濃縮液1リットル）を経過して標準溶液を水槽内に実現し、水槽中の生物への影響を観察

使用試薬：カプリニウム13濃縮液

試験対象：コアカ金魚10匹 近隣の熱帯魚ショップにて飼料用の金魚を使用

使用環境：Ph試験、循環ポンプ

2010年7月24日 試験開始



水道水20リットルに対し、カプリニウム濃縮液を200ml添加

その後、金魚10匹を投入。

初日は全頭数が元気に泳ぎ回る。

7月25日 さらに200mlを追加 1匹が群れから離れ孤立しているが変化はなし。



7月26日 さらに200mlを追加 あいかわらず1匹は群れから離れるが変化はなし。



7月27日 1匹が死んでしまった。おなかが完全に食べられており、死因は共食いと予測される。



対策として、飼料の量を倍にした。



そしてカプリニウム濃縮液を200ml追加、すこし寂しくなったがあいかわらず元気。



ちなみに死んでしまった1匹は孤立していた個体ではなく、群れにいた1匹。  
孤立した個体はあいかわらず1匹狼で元気。

7月28日 試験最終日、200mlを追加し、カプリニウムの標準液が完成する、Phは12.49。がんばったご褒美に水草をプレゼント。



8月6日 金魚はもちろん、近隣で取れたどじょう、ザリガニ、かえるでも試験。



試験員も愛着が沸いてしまい、トラ模様を「スズキチエコ」と命名、どじょうは全部「スギヤママコト」全数今日も元気です。死んでしまった1匹は事務所に埋葬しました。



事務所にて現在も飼育中ですので、お立ち寄りの際にはご覧ください。  
水の汚れが遅く、生物の成長速度が速いという現象も観察されています。